

# 連携協働通信「架け橋」

令和7年3月6日

横浜市教育委員会 学校支援・地域連携課 発行 NO. 42

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiiikirenkei/gakkoushien.html>

## 何故、社会とつながる学びが必要なのか

12月5日(木)、12月10日(火)に、教職員を対象とした研修を実施しました。今回の研修は今年度より、教職員育成課のステージ研修とタイアップし、多くの先生方に参加していただきました。講師は「認定特定非営利活動法人こまちぷらす」の理事長である 森 祐美子 様、元横浜市立小学校教諭の 池田 孝 様 をお迎えして表題の件について、講演していただきました。



今回の研修では・・・

- 学校の外(こどもたちが生きていく社会)における協働の事例から考える
- 自分にとっての「学校と地域の連携」について考えを深める
- 連携の中で難しい局面、どう整理するか

というポイントを踏まえながら、参加した先生方でペアを作り、対話を重ね自分自身の考えを照らし合わせながら研修を行いました。

講演では実際にこまちぷらすで行っている地域社会や企業との協働事例やプロジェクトの紹介がありました。その中でおむつを飲み物自動販売機で販売したプロジェクトの話があり、一人のお父さんの「おむつが自販機で買えたらいいな」という一言からおむつの販売会社と自販機の会社がつながることができ、設置につながったという話がありました。

社会との協働事例を聞いたうえで、学校での協働にイメージを繋げていくために元横浜市立小学校教諭の 池田 孝 様より実際に行ってきた取組を紹介していただきました。取り組み事例から子どもたちの行動や実際の気持ちの変化などを紹介していただきました。その後、参加した先生方でペアワークやグループワークを通して自分事としてクラス・学年の子を思い浮かべ、どんな学校外の人との出会いや協働によってその子が輝くか・活躍できそうかを思い浮かべながら考えていただきました。多くの先生に協働によって輝く子どもたちのイメージを共有していただくことができました。

今回の研修を通して、様々な協働事例を知ることによって地域社会とつながることの考えやイメージが深まり、連携を進めていく第一歩になっていただけると幸いです。ぜひ各校の取組が充実して、子どもたちの豊かな学びの実現につながっていくといいと思います。

## 研修振り返り(自由記述)

(アンケートより抜粋)

- ・やはり、学校での授業も大切だが、いろいろな場所に行って、たくさんの人と関わって学ぶことは大切だと思う。
- ・「関わるプラットフォームさえあればみんなが集まってくる」という言葉がとても印象に残った。
- ・連携先は多様であり、「まず、動いてみる」ということが大事であると再確認できた。
- ・「見切り発車でもOK」が心に残り、自分の実践も「見切り発車」がほとんどなのですが、「こうしたい」という想いをもって取り組むと、最後は何かあったという経験があった。地域連携は、人と生きる喜びを知ることだと学んだ。
- ・来年度に向けて、どこでどんな人と出会う場を設定できそうか、学習計画と照らし合わせながら、考えていきたい。

・「人と生きる」「大人に出会うこと」「あったらいいな」「やってみたい」「実現したい」など様々な言葉から考えさせられることがあった。その中でもまずは、見切り発車でもいいから、勇気を出して飛び込んでみることの大切さに改めて気付いた。

・学校で人と人が関わることには意義がある。安心と安全が守られると人は呟くようになる。そんな環境づくりが学校に大切だと思った。孤独に対する居場所について考える機会となった。

・自分から地域の方と関わりをもちに行ったり、子どもに投げかけてみたり、運営協議会等で「こんなことをしてみたい」「こんなことに困っている」と相談をするのもありかなと想像が膨らんだ。

・協働、連携するにあたり、まずは自分や子どもがどうしたいかなど。原点がぶれないようにというところはハツとした。ペアワークでの、先生になった理由など、本当に自分が大切にしたい部分だなと感じた。

・「協働」の考え方にはっとさせられました。今までは、学校側が「教えてもらいたい」「手伝ってほしい」という主語が学校でしかない考え方をしていた。しかし、講師のお話を聞いてみて、相手側のしたいことにも気を配ることで、長く太いつながりがもてるのだと思った。

## 学校運営協議会の可能性～子どもの学びと学校運営から考える～

1月23日（木）、27日（月）に教職員を対象に「学校運営協議会の可能性～子どもの学びと学校運営から考える～」というテーマのもと研修を実施しました。講師にCSマイスター 竹原和泉 様をお迎えし、講演をいただきました。

今回の研修では・・・

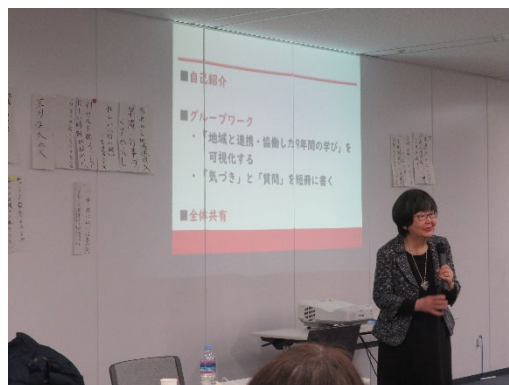
講師の竹原様からは、学校運営協議会の機能を活かした地域と学校の連携・協働の進め方について講義をいただき、学校運営協議会の制度や役割についての説明を他都市の好事例を交えながらお話をいただきました。

その後、グループワークとして自校の学校行事や授業、地域行事を学年ごとと月ごとに挙げ、付箋で示しながらカリキュラム表を作成しました。各グループからの気づきとして

「小中学校で行事が類似するので連携が重要。」「地域に人材はあふれているので、学校でできないことは地域を頼る」「付箋を貼ることで、特定の時期に多忙が重なる。地域との連携を可視化する良さに気づいた。」

などの声が聞かれました。

研修を通して、地域連携についての考えやイメージが深まり、グループワークで実施したカリキュラム表が各校の学校運営協議会の場で活用されると、各校の取組が充実していくのではないかと思います。今回の研修が、参加された先生方の引き出しとして蓄積され、子どもたちの豊かな学びの実現につながっていくことを期待しています。



### 研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）

- ・次世代を担う子どもたちの学びを何かに立ち返ることで、学校と地域がぶれることなく、それぞれの役目を果たすことが大切だと感じました。
- ・子どもの学びに有効な体験ができるように地域の材を知り、どの単元で活かせるかよく見極め、コーディネーターと地域の方としっかりとねらいと指導内容を打ち合わせして連携していくことの大切さがわかった。

- ・地域と協働していくところ、地域に任せるところ、学校がやるべきところの三分割だけでなく、その間にあるバランス配分を考えた協働の仕方があることに気づき、実践したいと感じた。
- ・「生徒を育てるための効果的な教育活動」に必要な連携を協議会で話し合い、次年度の学校行事などを決定していきたい。また、中学校だけでなく小学校とも連携を密にして、9年間で育てる子どもの姿を地域へ発信していきたい。
- ・今後の運営協議会の内容、運営方法について検討していく必要があると感じました。「こんなことがありました。」の報告で終わらず、子どものことを考えて協議した結果であることを保護者へも発信していくことも大切だと感じました。その方法については、今後考えていきたいです。
- ・地域学校協働活動の充実は、学校教育の充実に留まるものではなく、学校を中心に地域を活性化させる意義があるという。学校にとっても、喫緊の課題である働き方改革と教育活動の充実・発展を同時に実現できる可能性をもつ魅力的な活動だと言える。
- ・①地域とのつながりを教育課程（カリキュラム）の視点で整理する必要があることや、②地域には優れた人材が溢れていること、③地域と学校が連携して行っている活動を可視化することで、誰もが分かるようになり、連携を進めたり精選したりすることができることが分かった。
- ・グループワークを通して、地域によって学校と地域とのかかわり方が全く違うことに驚き、この仕事をしていると異動があるので、地域の特色を受け入れていかないといけないということも学んだ。
- ・学校運営に関する方針の承認が「OK」ではなく「Let's」というのがとても分かりやすく、話をお聞きして「一緒に取り組んでいく」という意識がこちらも欠けていたなと感じました。3月に本校で学校運営協議会を行うので、進行や話題について改善を図りたいと思います。

## 令和6年度 第5回 学校・地域コーディネーター養成講座

### 『各校の取組の紹介を通じて交流会、発表会を実施！』

学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）養成講座の最終回として、2月14日に北部と南部、17日に東部と西部の方々にお集まりいただき、交流会、取組発表会を実施しました。

前半の交流会では

3回それぞれのカテゴリーわかれて、自校の取組の紹介や、名刺交換を行うことでコーディネーター同士の横のつながりを作りました。

- ① 小中校種別での交流
- ② 校種を分けずフリーでの交流
- ③ 方面別でわかれて交流

コーディネーターが複数名いる学校は代表者又は時間交代で紹介役を行いました。

その後、参加者による投票を実施（付箋を貼る）し、気になった活動や発表を聞きたい等、興味を持った学校の資料に付箋を貼り、事例を共有しました。

発表は交流会で使った活動紹介書を利用し、付箋が多く貼られた学校から発表を行いました。

発表後、各校の気になった取組や工夫した部分など、各学校の活動を深掘りして質疑を行いました。

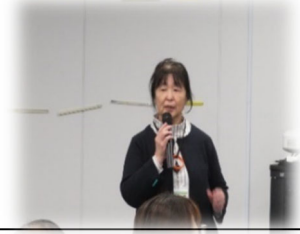




◇最後に、全5回の講師を務めていただいた高橋様より今年度の講座のまとめとしてお話をいただきました。

**「その活動はなんのため？」**

地域と学校がパートナーとなり、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。



**【ポイント1： 地域学校協働本部の担い手】**

地域学校協働本部の3つの要素

**① コーディネート機能**

より幅広い地域住民や団体等の参画を得て、学校との連絡調整を行い、緩やかなネットワークを形成する。

**② 多様な活動**

従来の地域住民等に加え、NPO、民間企業などにも学校の教育活動に参画していただき、地域と学校が目標を共有して双方向の活動を進める。

**③ 継続的な活動（継続・安定）**

学校の教職員や地域学校協働本部の構成員がかかわっても、継続的に地域住民が参画し、安定して活動を進める。

**【ポイント2： コーディネーターの活動は社会教育】**

まちづくりの視点で活動（社会教育）をするために、学校教育への理解をもった地域との調整役が必要となる。

☆ **3つのきく力**： 聴く力 ・ 訊く力 ・ 効く力

**【ポイント3： つながる：情報収集・情報発信・情報の整理】**

情報収集のコツ！「つながる」ことを楽しむ。

これからの活動では、子どもを真ん中に、自分たちの考える**ウェルビーイング（Well-being）**

「良い（Well）」と「状態（Being）」とは何かを考え「対話」することは大切。

**【教育振興基本計画のポイント】**

今後の教育の方向性を示す羅針盤となるべきものを目指す2つを大きなコンセプト

「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差した**ウェルビーイングの向上**」

◇今回、講座を修了された学校・地域コーディネーターの方について、朝会や集会、学校説明会、学校だより、PTAだより等を通してコーディネーターの方々の周知をぜひお願いいたします。特に教職員の方々へ周知していただくことで、学校内での活動につながっていくことが考えられますので、顔の見える関係づくりをお願いいたします。また、学校・地域コーディネーターとのコミュニケーションを密にとり、信頼関係の構築を図ること、学校の求めていることを共有することで充実した活動につながっていくと思います。来年度も引き続き、学校・地域コーディネーター養成講座を開講いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

◇また、コーディネーターの養成講座が平成19年からスタートし、各学校におきましてはここまで多くの方を推薦していただいています。養成講座開始当初と比べると、学校の状況は大きく変わっており子どもを取り巻く環境も変わっています。当課の研修の際にも、現在の学校の状況等もお話させていただいており、コーディネーターの方々にもブラッシュアップしていただきながら学びを続けていただき、学校のニーズを把握していただいたうえで活動を続けていただきたいと思います。次年度も当課において、様々な研修を開催していきますので、ぜひコーディネーターの方々にも出席していただくと幸いです。引き続きよろしくお願いいたします。

## 令和7年度 学校・地域コーディネーターの配置について

学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター」の配置については、学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的な推進を進めるうえで重要な部分になると考えています。

今年度も166名の受講者が「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講しています。うち5校は初めて学校・地域コーディネーターの推薦を行った新規校でした。

現在、横浜市では466校に学校・地域コーディネーターが配置されています。

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要です。その推薦を受けた方については、年間5回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦の準備を進めていただけるとありがたいです。

また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすこともご検討ください。一度に複数名の推薦も可能であり、複数名での養成講座への出席も可能です。推薦は、令和7年3月中旬より開始予定です。推薦をもって6月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座が受講可能となります。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、学校・地域コーディネーターは複数校の兼任も可能です。兼任する場合は、兼任届の提出が必要となります。提出書類等の詳細は令和6年2月10日付教学第2559号「学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の複数校兼任について」をご確認ください。提出期限は令和7年5月12日（金）になります。すでに他の学校で養成講座を受講し、学校・地域コーディネーターとして活動している方については、兼任にあたって養成講座を改めて受講いただく必要はありません。

# 次年度の研修のお知らせ

## 方面別 学校・地域コーディネーター研修・交流会

学校・地域コーディネーターを対象に、研修及び交流会を方面別に日時を設定して開催します。

令和6年度は年2回の開催でしたが、令和7年度も方面別に2回実施する予定です。

### ○日時及び会場（1回目）

	日 時	会 場
1	5月21日（水） 午前の部（東部・南部方面） 9:30～ 午後の部（西部・北部方面） 14:30～	花咲研修室 201～203

※基本は所属の学校の方面での参加ですが、予定が合わない場合は他の方面での参加も可能です。

### ○日時及び会場（2回目）

	日 時	会 場
1	11月13日（木） 午前の部（北部・西部方面） 9:30～ 午後の部（東部・南部方面） 14:30～	花咲研修室 201～203

※基本は所属の学校の方面での参加ですが、予定が合わない場合は他の方面での参加も可能です。

## 「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な推進について

学校運営協議会会長、学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター及び教職員を対象に、標記研修を開催します。

### ○日時及び会場

	日 時	会 場
1	6月27日(金) 15:00～	花咲研修室
2	7月4日(金) 15:00～	花咲研修室

※講師は 文部科学省 CS マイスター 竹原 和泉氏を予定しています。

## 学校運営協議会委員及び学校・地域コーディネーター及び教職員合同研修

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター及び教職員を対象に、標記研修を開催します

### ○日時及び会場

	日 時	会 場
1	10月21日(火) 15:00～	花咲研修室
2	10月28日(火) 15:00～	花咲研修室

※実践校による事例発表を予定しています。各校の取組を一層推進する際の参考にしていただくと幸いです。

## 何故、社会とつながる学びが必要なのか

教職員を対象に研修を行い、地域と学校の連携・協働について知っていただきたいと考えています。

### ○日時及び会場

	日 時	会 場
1	12月4日(木) 15:00～	花咲研修室
2	12月12日(金) 15:00～	花咲研修室

※講師は 認定 NPO 法人こまちぷらす 理事長 森 祐美子氏 を予定しています。

## 「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な推進について

教職員を対象に研修を行い、「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体での推進について学びを深め、自校の取り組みに活かしていただきたいと考えています。

### ○日時及び会場

	日 時	会 場
1	1月30日(金) 15:00～	花咲研修室
2	2月5日(木) 15:00～	花咲研修室

※講師は 明星大学教育学部 特任教授 朝倉 美由紀 氏 を予定しています。